

わ さ び と 唐 辛 子

— 2年次校外学習実践報告第一報 —

2年次 小林美智子 阪本康之 深澤孝之
岡 聖美 嶋田昌夫 松井一夫
清水 聖 手塚雅之

2年次3月に実施される韓国への校外学習についての事前指導報告及び実施予定計画についてまとめた。校外学習の目的とねらい、事前学習の進行状況と諸活動の記録、交流会準備などの報告である。個人研究・グループ研究については研究テーマの計画からプレゼンテーションまでを詳細に言及した。言語指導に関してはハンゲル講座について、また、現地での交流会のための事前の諸活動の記録と二回にわたる交流会の内容を記している。

キーワード：異文化理解 テーマ別グループ研究 文化比較 交流会 資金調達

I. はじめに

異文化理解という大テーマのもと、本校の韓国校外学習は、平成8年からスタートし、平成13年度で5回目となる。年々旅程も事前学習の成果も充実したものとなってきている。特に現地高校生との交流は披露する内容も、本校生徒の態度もレベルアップしているし、なによりも、現地で接し、心が通じ合う事は、何にも代え難い貴重で感動的な体験である。

また、テーマごとに約1年間をかけて行う韓国と日本の文化比較の研究は、両国の歴史や気候風土、社会的背景等の異文化理解を深め、また他国を理解するとともに自国の文化理解にも通ずる。

このように、2年次校外学習実施は、年間を通じてその位置付けはかなりのウェイトを占める行事である。

従って校外学習（事前学習）を大きな流れとし、それを中心として各学校行事や学年裁量時間・LHR等をからませた計画を考えている。

同時に学年目標である次の3項目を考慮した計画でもある。

- ① 自分で考え、行動し解決していける自主的活動が自然に行える。
- ② あらゆる場に応じてバランス感覚の良いコミュニケーション能力を発揮する。
- ③ 各発表の場において、プレゼンテーション能力を養い、3年次での課題研究や進路へとつなげる。

以上の目標を踏まえ、校外学習（事前学習）実施計画を企画する上で、あらゆる場面において、上記の目標内容が実践出来るように心掛けている。

II. 目的と具体的活動内容

2年次校外学習の目的を我々は次のように設定した。「他国の文化に興味・関心を持ち、日本との関係を主体的に考える力を育む」

この目的を達成するためには具体的にどのような活動をすればよいのか。学年会などで検討しまとめた結果、次の3つの要素を取り込んだ総合的なプログラムを作成することになった。

- ①韓国の生活様式、歴史、文化など生徒が興味・関心を持っていることについて調査研究し生徒の視点から韓国をみつめる機会を与えること。
- ②校外学習に対して「自分たちが創る校外学習である」という主体的な認識を持たせること。
- ③文化の異なる人たちと進んで交流しようという態度を育てること。

以上3つの要素を取り入れ、具体的に進めた活動が次に挙げる4つである。（各活動の詳細については各項を参照してください。）これら4つの具体的活動は各要素をすべて含む活動であり、またそれぞれの活動はお互いに関連したものである。

○事前学習

・個人、及びグループ研究

生徒自身が興味や関心のある韓国の文化、生活、社会について、日本との比較という視点から調査研究活動を行う。

・ハンゲル語講座

簡単な日常会話などの学習を通して、文化の基礎でもある他国の言葉に触れる。

・講演会

専門家の視点から韓国と日本の文化の違いについて講演してもらい、自分たちの調査研究活動の参考にする。

○資金調達活動

- ・校外学習代金の一部を自分たちの手でつくりだす現地高校生との交流会で使用するホテルバンケットの使用料金およそ8万円を自分たちで捻出する。

○交流会準備

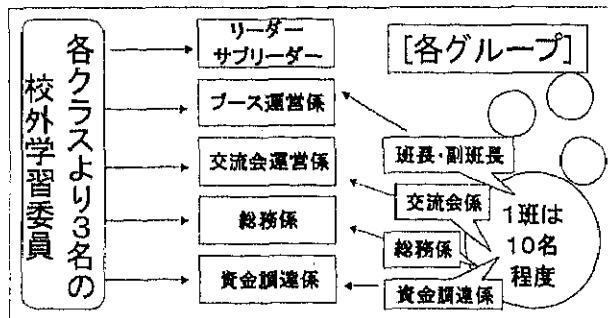
- ・交流校への贈り物の準備
生徒達のアイデアで交流校への贈り物を準備する。
- ・交流会の出し物の準備
出し物の企画からその練習計画などを生徒自身の手で行う。
- ・現地の高校生を招いて行う招待交流会で事前学習で研究した内容（韓国と日本の文化比較）を発表するための準備を行う。

○その他の諸活動

- ・活動のPR
各班の研究活動の状況、資金調達や交流会系の活動の様子、ハンゲル講座や出し物の練習の日程などを生徒全体に伝える「校外学習新聞」の作成。
- ・旅行諸準備
校外学習に際して必要になる旅行しおりの作成。

(1) 活動組織づくり

4つの具体的な活動を効率よくかつ効果的に進めるために図のような生徒の活動組織をつくった。



校外学習の中心となる役割となる校外学習委員を各クラスから3名選出し、その委員の代表を校外学習実行委員長とした。また、活動はグループ研究を進める16の班を基本としている。この班の編成にあたっては、まず生徒それぞれが韓国について自分の興味のある事柄について自由に調べレポートを作成し、その後生徒が提出したレポートを、その内容から16の領域に分けて、その各領域を1つの班とした。このような編成によって、1つの班はクラスを基本単位としたものではなく、生徒の興

味・関心を基本としたものになることが期待される。

1つの班はおよそ10人程度の人数となり、その中で班長、副班長、資金調達、交流会、総務の係り分担を行った。4つの活動のうち事前学習の班別研究は班長が、資金調達活動、交流会準備は文字通り資金調達係、交流会係が、その他の諸活動は総務係が担当する。

III. 事前学習 - 個人及びグループ研究-

各旅行業者に校外学習の見積もりを依頼する際、日程、費用などの概要の他に校外学習をどんなものにしていきたいのかも考えてもらい、プレゼンを行った。その結果、単行本「ワサビの日本人と唐辛子の韓国人」呉善花著という本にヒントを得た日本と韓国の文化の違いをメインテーマにしたらいいのではないかと業者に決定し、この年次の校外学習のテーマは「わさびと唐辛子」ということで日韓の文化比較に決まった。

(0) プロローグ (第1回事前指導)

まず、今回のテーマが比較文化論なのでドラマの最初に

- ・文化の違いに目を向けることは楽しいことである。
 - ・文化を見つめること、比べることで新しい視点が生まれ、さらに新しい発見をすることができる。
- ということを伝えたく、「日韓の文化比較」というタイトルで講演会をお願いした。

高校生新聞が行っている出前講義という企画に「日韓の文化比較」というテーマで講義して欲しいとお願いし、東京国際大学の金 俊昊教授に3月12日講演していただいた。内容は過去の歴史・ハンゲル・文化・歴史の葛藤・共生と志向の時代であった。

3月13日、校外学習担当旅行業者の近畿日本ツーリスト株式会社 吉岡氏に行程を説明していただきながら見学地から港町(釜山・横浜)、古都(慶州・奈良京都)、鉄道(セマウル・スカイライナー)、温泉(儒城)、民族の歴史(民族村)、学校・高校生(学校訪問)、首都(ソウル・東京)、平和(統一展望台)など日韓の文化比較を旅行業者の視点から説明していただいた。

(1) 第1章 個人研究 (第2回事前学習)

事前学習の取組としてまず個人のレベルで日韓の文化について考えさせた。大テーマとしては「わさびと唐辛子」から来た日韓の文化比較。個人の興味あるところでテーマを設定させ文化の違いについて、3月に3日間、図書館、施設、インターネットなどで調査をさせた。調査したものについてはHTML形式で4ページ以上、トップ

ページは共通にindex.htm というファイル名にしフロッピーディスクに作成させ、プリントアウトしたものと共に提出させた。このデータはサーバにアップし校内のコンピュータからはいつでもアクセスできるようにした。

－日程－

3月13日

学習テーマと活動計画の作成

活動計画の提出／承認

3月14日～16日まで調査活動

3月16日～19日は報告書作成

3月19日(月曜日)12時までに報告書提出

報告書の内容は、調査・研究のテーマ、テーマ設定の理由、調査・研究方法、4日分の調査・研究活動計画、必要な物・注意すること・事前に準備することを記入させた。

調査・研究を進める上で注意することとして次のことを示した。

○日本と韓国との文化に着目し、自分なりの視点を持ってそれぞれの文化を比較研究すること。その場合どちらの方が良い、悪いといった評価をするのではないことを十分に認識しておくこと。

○「比較」ということにあまりにこだわりすぎると先に進めなくなるので主に韓国のことを調べる中から「そのことについて日本はどうなのかな？」というような発想でもよい。(その逆で日本について中心に調べる中から韓国に目を向けてもよい)

○小学校低学年の時にやった調べ学習ではないことを頭に入れておきましょう。以下の例のようにならないように気をつけましょう。

例えば「韓国の民族衣装について」というテーマで研究を進めたとしましょう。よくあるパターン・・・

「韓国にはチマチョゴリというものがあります。それはこんなものです。私も一度着てみたいです。終わり。」

もう一つ、例えば「韓国の言葉について」というテーマで研究を進めたとしましょう。よくあるパターンは・・・「韓国の言葉はハングルです。おはようはアンニョンハセヨ、こんにちはもアンニョンハセヨ、こんばんはもアンニョンハセヨ、みんな同じです。みんな同じなのでびっくりしました。終わり。」

○図書館などは休館日があるので事前に確認しておくこと。

○施設によっては事前にアポイントメントを取る必要のあるところもあります。

○施設などで質問をする場合は自分の身分を明らかにし、何のための調査なのかということをはっきりと相手に伝え礼儀をわきまえた行動をとること。服装などは社会的に見て高校生としてふさわしいと思われる格好をすること。言葉遣いなどにも充分気をつけること。

(2) グループ研究(第3回事前学習)

提出された個人の研究テーマを年次会に持ち寄り、似た内容のものを集め各班10名ぐらいの16班のグループを作成した。

1班	衣服・服装	2班	スポーツ	3班	昔話、神話
4班	言葉	5班	音楽・映画	6班	宗教・年中行事
7班	工業・交通	8班	歴史①	9班	歴史②
10班	料理全般	11班	食品	12班	教育・道徳
13班	生活	14班	キムチ・農業	15班	商業
16班	食事とマナー				

表1「グループ研究テーマ」

次にグループごとに班長1名、副班長1名、交流会係1名、総務係1名、資金調達係2～3名という係り決めと、3月に個人で研究したものを各班のなかで発表しあい、グループとして交流会を行うときのテーマを決定、大まかな活動計画の検討させた。

班	テ - マ	研 究 内 容
1	着物>チマ・チョゴリ	着物を中心としてチマ・チョゴリとの比較をする ・生活と衣服とのかわりあい ・流行 ・着付け
2	サッカー	日韓戦 日本と韓国のプロサッカーチームを調べる
3	日本の昔話・神話を韓国の人に知ってもらう	韓国語で日本の物語の人形劇をやる 絵本を置いておく
4	韓国語と日本語	感じ平仮名の成り立ちと歴史
5	ジャンル別の音楽の移り変わり	ジャンル別に調べて、そのジャンルの特徴や流れなどを調べる
6	日本と韓国の宗教と行事のちがいを	日本と韓国の行事を比較する 関係してくる宗教についても調べる
7	建築	伝統的な建築の比較 ・つくり ・特徴 など
8	学校間	教科書の問題(今の日本と韓国の教科書の比較) 昔の日本と韓国の学校生活について これからの日本と韓国の関わり 私たちの考えと感想
9	今と昔の日韓関係	日本が韓国に対してしたこと(侵略など) 韓国が日本に対してしたこと(条約など) 今までの歴史によって築かれた日韓関係 日韓関係をより良くするには
10	韓国と日本の料理	日本の代表的な料理を紹介 ex.) お赤飯、お寿司、納豆、梅干、天ぷら
11	韓国の菓子と茶	韓国でよく食べられている菓子 韓国の伝統的な菓子 韓国でよく飲まれている茶 茶の歴史、魅力
12	韓国の思想における教育とマナー	年上の人を重んじる社会 ・教育制度 ・韓国の受験・科挙制度 ・マナー(タバコ・お酒)
13	年中行事の比較	若者の年中行事を調べる アンケートをとったりして資料を集める

14	キムチについて	ルビ形式で日本のキムチを紹介する日本の漬物の特徴、代表的なもの日本のキムチについて
15	日本の休日	日本人が休日にどんなテーマパークに行っているかなどで買物をして…などを流行、物価を含めて調べはっぴようする
16	日本と韓国の食文化	食文化の比較(主食、漬物、お菓子など)マナー作法について(食事、酒の飲み方など)双方の影響について

表2 各班のテーマ・研究内容

5月、各班の研究が進捗しなくなったため、今後の研究活動の方法について説明をした。(資料1)

7月7日に第1回研究発表会を多目的教室で行った。発表する内容は、研究テーマ・大テーマ(研究内容)、小テーマについて4月から6月まで調査・研究したことの報告、今後の予定・計画(特に夏休みの)で模造紙・実物投影機・コンピュータ(パワーポイント、ブラウザ等)で提示しながら、発表原稿を作り行った。

9月に班としての話し合い(今後、話し合わなくてはいけない)を行った。

①小テーマごとの研究結果をどのように一つのものとしてまとめていくのか。

②10月20日の発表はどのように行うか(発表時間5分)。

- ・プレゼンテーションストーリーボードの作成
- ・発表原稿の作成

③招待交流会で配るパンフレットや資料はどうするか。

④招待交流会の当日、どのような形で発表(ブースを作成)するか。

また、小テーマごとの研究経過、研究成果を報告させた。記入内容は、小テーマ・メンバー・研究の内容、経過、結果など・今後の予定

10月20日に保護者・留学生を招いての第2回研究発表会を体育館で行い、生徒全員に評価をつけてもらった。発表の主な内容を書かせ、内容・分かり易さ・提示資料の3項目で、3…良い、2…ふつう、1…もう少しの3段階でつけさせた。その後集計して各班にその結果を提示、今後の研究に反映させた。

11班

全国共通の和菓子と韓国菓子
地域別有名菓子
日本で人気のあるお菓子

全国共通の和菓子と韓国菓子
餅をあんこやきなこで包んだもの。餅とお餅に似てはいるが、インジェルももち米をじっくり蒸した後、粘りが出るまで餅をついた後、この餅に豆・小豆の粉をまぶす。

月見団子
十五夜の日(月見の晩)に栗や栗平などのお餅の裏の裏やススキと共に15、ないし13個蒸して供える。
ムルチパンツク
主に、チュンク(秋夕、旧暦の8月15日)頃をにかけて作って食べる韓国風餅で、カブチヤ・小豆・米を材料に蒸し上げたもの。

おだんご
甘いものはちょっと苦手という方にもみたらだんごは好評です。その味にもあんこ、きなこなどもありです。

サムセンタンジャ
ヨモギ団子・イワタケ団子・ナツメ団子の三種を蒸したもの。鍋湯で湯がいたヨモギ、イワタケ、ナツメを洗い餅の中に詰めたたり蒸したりしたもので、餅りもよく、餅りもよく、色鮮やかなものである。

好きな和菓子ベスト5

- 1位 洋かん
- 2位 団子
- 3位 まんじゅう
- 4位 大福
- 5位 おはぎ

地域別の有名菓子

有名菓子
特産物とお菓子
韓国菓子の特徴

有名菓子

- 京都 八つ橋・くずきり
- 名古屋 ういろう・ちまき
- 長崎 カステラ・びわゼリー
- 北海道 白い恋人・はすかつげゼリー

特産物とお菓子

- 沖縄…黒糖
- ちんぴん
- 新潟…米
- ライス・バフ入りキノコの山
- 徳州…りんご・あんず
- フリッツ・コロシ

韓国菓子の特徴

- もち米、うるち米を使用していること。
- 調理法として蒸すことが多いこと。
- 甘味料に砂糖ではなく、ハチミツを使用していること。

日本で人気のあるお菓子

ポテトチップス
じゃがりこ
ベビースターラーメン

図1 パンフレット(日本語版)

(3) ブース

韓国のホテルのパンケットを借りて招待交流会を行うときに、事前学習した内容を発表することにした。会場をしきりなどで2m×2mの区画に分け、その区画内で展示・発表する。基本的な内容は日本の紹介と韓国との比較とし、パンフレットの作成、資料提示の方法、発表の方法などを工夫し韓国の高校生でも理解できるようにする。パンフレットはA4版1枚を半分に折ったA5版の4ページ、調べた内容を要約し、机に置く。

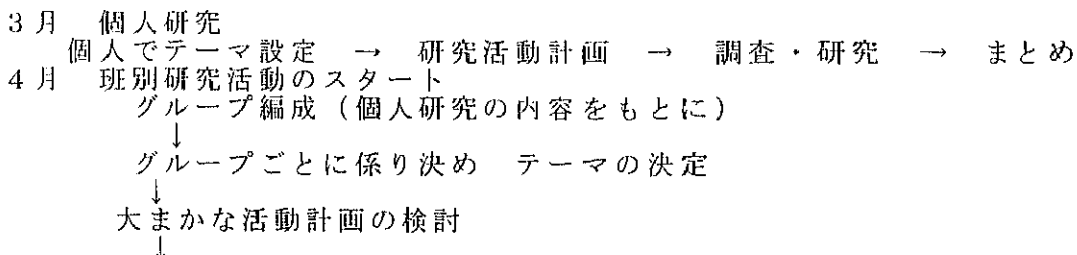
12月15日に筑波大学の留学生に来ていただき、パンフレットや展示物の内容について、内容の真偽、韓国人の人に失礼にならないか等相談させ、12月18日にパンフレット日本語版を完成・提出させた。

今後、1月～2月に英語かハンゲルに翻訳しパンフレットや展示物を完成させる。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
合唱I	3月までは5回程度											
	3月は毎集会ごと											
	保護者会で発表											
合唱II	3月までは5回程度											
	3月は毎集会ごと											
フラダンス	週1回2時間											
	(夏期休業中3日)											
	参加費で発表・保護者会で発表											
日本舞踊	週1回2時間											
	(夏期休業中3日)											
	保護者会で発表											
たまごアート	設装め 設装い 乾燥 下絵 染色											
	植物模写 押し花作成											
	完成											

今後のブース運営、研究活動の方法について

○これまでの流れ



○さて、これから今この辺まで進んでいると思います。さて、これから先に行くためには少し壁を超えないといけません。その壁とは、各班のテーマに沿って具体的に「何を」「誰が」「いつまでに調べる」ということを決めることです。これが、意外と難しいのです。たぶん、前回の班別活動の際、何をしていたかわからずただ時間が過ぎてしまったというグループもあったのではないのでしょうか。そのまったりとした時間こそ壁にあたっている証です。

個人で研究を進めるときにも、この壁にぶつかるものです。いま多くの3年生も課題研究を進めながらこの壁にぶつかって悩んでいます。この壁を超えるのは課題研究のように基本的に個人で進めていくものよりも、今回のようにグループの研究の方がちょっと難しいかもしれませんが、今回グループ研究に積極的に取り組むことで、壁を超える方法を理解しておくこと来年の課題研究のときにきつと役に立ちます。グループで協力し合っ乗り越えましょう。

では、この壁はどうすれば超えられるのでしょうか。

第一段階 テーマを設定した後、そのテーマをもう一度見直し、小さなテーマをいくつか出し合う。

例えば、1班のテーマは「着物>チマチョゴリ」です。そして、研究内容は「着物を中心としてチマチョゴリとの比較をする」です。この研究内容とはテーマをある程度絞った中テーマといってもいいものかもしれません。その後が大切なのです。研究内容の中にある 比較する とありますが、何について比較するかまで考えないといけません。そこで1班は 生活と衣装のかかわりあい 流行 気付け の3つを挙げています。このように小さなテーマを出すことが大切なことなのです。

第二段階 小さなテーマについてどんなことを題材にするかさらに細かく出し合う。

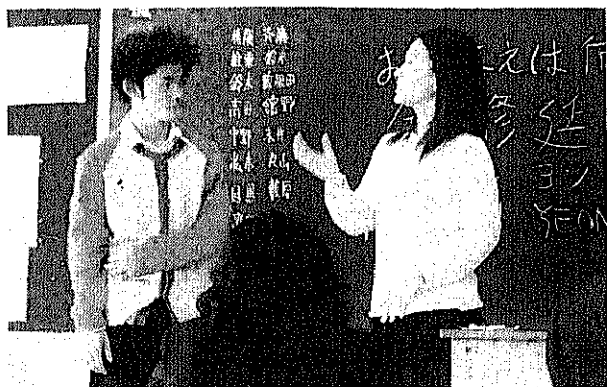
例えば「韓国と日本の魚事情」というテーマを設定したとしましょう。そして、研究テーマが「韓国と日本で好まれる魚、好まれない魚」で、小テーマを 日本で好まれる魚とその理由 輸入される魚 魚の調理法の3つにしました。この後、それぞれのグループで小テーマについて自由に意見を出し合うのです。

4) 事前学習 - ハングル講座-

筑波大学、東京国際大学の留学生を講師にお願いし、10月、11月、12月にそれぞれ1回ハングル講座を行った。各回両大学あわせて8名から10名の留学生の方に参加していただいた。1回の講座は2時間程度で計画をたてた。事前に基礎的なハングル講座のテキストと40語程度の単語カードを作成し生徒に配布した。

実際の講座では留学生の方から、短い期間であるので系統的な学習をするより、基本的な日常会話を楽しく学習の方が生徒にとってもいいのではないかと提案があったのでそのような内容で行ってもらうことにした。作成したテキストはほとんど使うことはなかったが、単語カードは大変有効であった。

講座の始まりの頃は、はじめての言葉にとまどっていた生徒も時間が経つにつれて積極的に会話の練習に参加できたようである。3回とも基本的に同じ留学生の方が同じクラスを担当していただいたので、生徒達も慣れて練習もより楽しくできたようだ。



(ハングル講座の写真)

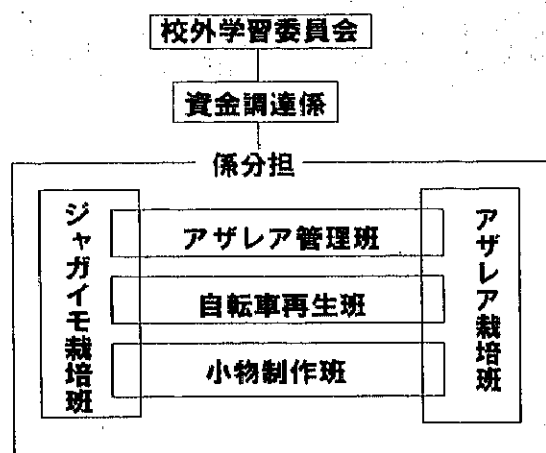
ハングル講座としてそれほど多くの時間をとることができない場合には、今回のように楽しく日常会話の学習を中心に講座を組み立てた方が、講師になっていただく留学生の方も受講する生徒にとっても取り組みやすいようであった。短い時間ではあるが文化の基本でもある言葉の学習は生徒の韓国に対する意識を大いに高めることができたようだ。また講師も韓国からの留学生ということで韓国についての様々な話も聞くことができ、これも生徒が「自分たちは韓国に行くんだ」という意識を高めることにつながったと思われる。

III. 資金調達

現地で行う招待交流会はできるだけ生徒自らが企画立案し実施するよう心がけることとした。そこで、招待交流会を行うホテルのバンケットルームの使用料(約80,0

00円)も自分達の手で捻出することにした。使用料は保護者に協力を求め、校外学習参加者で分担すれば比較的簡単に済む問題かもしれない。しかし、自分達の知恵と技術と行動で資金を調達すれば、招待交流会を行う疑義が深まると考え、活動を行った。

まず、資金調達系の組織づくりを行った。責任者3名の他、グループ研究の各班から2~4を資金調達班とした。この係を基本に年間を通した事業計画を立案した。班の中には係を置き、資金調達に必要な仕事をあらいだし、役割分担を行った。



◎係の活動資金の調達のため、株券の発行を行った。

資金調達の係運営のため、株式の発行を行い、準備資金と運営資金を集めることにした。株式の発行価額は現行商法上、1株5万円以上でなければならない。また、資本の総額は1000万円以上が必要なのが記載されているが、今回は模倣的ということもあり1株50円で発行を行った。株式会社であることから最終的には株主総会を開き収支決算を行いたい。

◎資金調達の実施

資金の調達方法としては、自分達の手でものを作って自分達で販売することを基本とした。この考えを基に以下のことを行った。

(1) 食品類を栽培し、商品化、販売

①ジャガイモ

農場に2a程度のジャガイモ畑を作った。品種は男爵と出島を選定した。畑づくりから種イモの定植、除草や土寄せなど放課後などを利用し、資金調達係が中心となって有志を集めて栽培管理を行った。

7月7日(土)放課後を利用し収穫を行った。未経験者が多い中、参加者それぞれが協力し作業を行った。続いて2年次生の保護者を中心にジャガイモの注文票を配布し、7月14日より販売を行った。約3万円の収入を

得ることが出来た。

親身になった指導していただいた、農業科の白石先生に感謝したい。



(写真：ジャガイモの収穫)

②枝豆

枝豆の栽培と販売も計画した。種まきから苗作りまでは土曜日の学校裁量時間を利用し、2年次全員で協力し行った。しかしながら、播種後の気温の上昇や品種選定のミス、また指導者の力量不足により、販売できるほどの収穫にはつながらなかった。

大きな失費にはなってしまったが、ものを販売する難しさを痛感するよい経験となった。

③銀杏

本校の銀杏並木になる銀杏を収穫し、製品化し黎明祭で販売することを企画・立案した。ところが銀杏は地域の方々からの需要も高いため、係の生徒は地域住民と競って収穫することとなった。さらに商品化においても想像以上にこずることとなったが、実取りのアイデアもあり、黎明祭の販売に至ることができた。

④ポップコーン

本年、9月1日～2日に坂戸市主催のよさこい祭が開催されることとなった。学校としての参加依頼もあったことから、2年次も模擬店としての参加を行うことにした。ところが、前日までが夏季休業にあたり、準備が十分にできそうにないと判断し、比較的安易なポップコーン販売を行った。

ポップコーン機はレンタル、食材は専門店から入手し、校外学習委員らが中心地となって模擬店が運営された。結果は場所の悪さにも負けることなく、多くのお客様が見えてくれた。



(2) 植物の栽培から販売

①アザレア

よさこい祭、黎明祭においてアザレア（西洋ツツジ）を販売することを計画した。

アザレア苗を入手し、鉢替え、かん水等資金調達班アザレア係が管理を行った。

よさこい祭当日までには開花には至らなかったものの、開花イメージを提示するなど販売に工夫を加えたため、また、販売する生徒の熱意に押されたためか、想像以上の売上につながる事ができた。

(3) 資源の回収からリサイクル・販売

①アルミ缶の回収

坂戸市ではリサイクル推進室が窓口になって、資源集団回収を行っている。資源集団回収はゴミを減らし「資源」としてリサイクルする活動で、市内の多くの自治会や子ども会などが取り組んでいる。そこで、資金調達係でもこれに参加し、校内の資源をリサイクルすることを計画した。

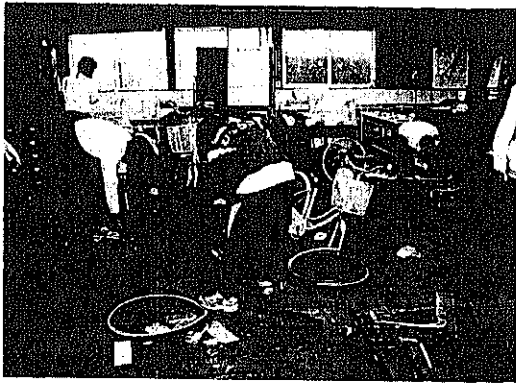
しかし、以下の理由で実施までには至らなかった。

1. 学校の古新聞や古雑誌などの資源は売ってはいけなかったことがわかった。
2. 自動販売機の缶は販売業者が引き取る為、学校がリサイクルさせてはいけなかったことがわかった。
3. 本校は国立学校である為、校内で生じた資源は坂戸市では引き取らない事がわかった。
4. 地域の資源回収を計画したが、学校の周辺ではすでに自治会が活動を行っている為、回収にまわることはできないことがわかった。

②自転車の再生

廃棄された自転車をリサイクルさせる為、係に自転車再生班を作った。

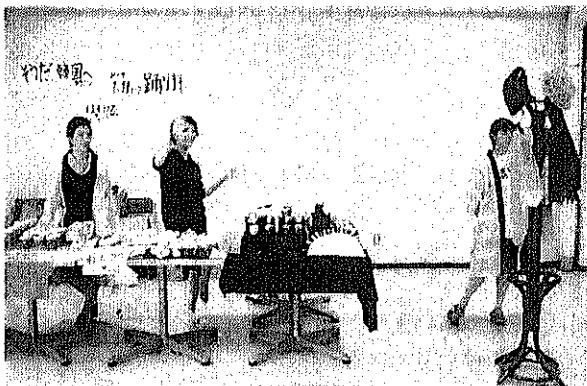
黎明祭より販売を始め、全てを売り切ることができた。



(自転車修理の様子)

③小物制作

女子が中心となって、不要品を回収したものを利用し小物の制作と販売を行った。販売は黎明祭の2年次校外学習研究発表会場わきで行った。



(販売の写真)

IV. 交流会

交流会の持つ意義は、「言語や習慣、文化が異なる国の同年代の若者と向き合うことにより、本や旅行雑誌、観光旅行だけでは味わうことのできない、韓国という国をより身近に経験することができる」という点にある。このような経験こそ、将来、グローバルな視点で物事を考え、より広い視野と国際性を身につけるべく努力しようとするきっかけとなるに違いない。

今回の韓国校外学習では、交流相手校へ訪問して開かれる従来通りの交流会に加え、相手校を招いて開催する招待交流会も予定している。この企画は、交流校が互いに主催者となって会を開催し、訪問・招待しあうことによって、生徒同士また学校同士の親睦がより深まるに違いないという考えから立案されたものである。今までは「客」として相手校が準備した交流会に参加するだけであったことに対し、交流とはどういうものなのか、またお互いをより理解するためにはどうしたらよいかについて考え、企画力を伸ばすためにも、その意義は大きいと

思われる。

さらに、この招待交流会には、生徒が事前学習で日韓両国について勉強、研究した成果を発表する機会をもうけており、「日本人が見た韓国」、「韓国が見た日本」について率直な意見交換が行われることが期待される。この貴重な体験によって、「異なる国の見知らぬ人」から「同じ地球に生きる人類」という、国際人としての考え方も生まれてくるかもしれない。

これら2つの交流会の実現に向けて、校外学習委員の中から選ばれた交流会担当の生徒3名が、参加する全生徒の意見を取りまとめて企画し、またその後の準備、練習も率いた。途中経過は次の通りである。

1. 出し物

交流会担当生徒は、まず、交流会の内容について2年次全員にアンケート調査を実施し、次のような企画を立案した。

- ・全員合唱（翼をください）（明日があるさ）
- ・踊り（よさこい節）

しかし、交流相手校が昨年までの美林電算女子学校から徳園芸術高校に変更となったため、教員側がなお一層の工夫が必要ではないかとアドバイスした。何度かの指導後、生徒もこれに同意し、より難易度の高い合唱曲をと再度アンケート調査を行い、混声4分合唱の曲「大地讃頌」が新たに選ばれた。またより日本をアピールできる企画は何かについて話し合い、「ソーラン節」、「日本の歌メドレー」を考えた。

それらに日本舞踊を加え、出し物は以下の6点に決定した。

- ・合唱Ⅰ（大地讃頌）
- ・合唱Ⅱ（明日があるさ）
- ・有志による日本の歌メドレー
- ・ソーラン節
- ・日本舞踊（さくらさくら・新潟民謡の十日町小唄）
- ・筑坂紹介（ビデオ映像をコンピュータで処理したもの）

日本舞踊については、名取でもある本校講師に指導していただいている。また、合唱については3回程度、音楽の教員に指導していただく予定である。

2. プレゼント

- ・だるま
日本の伝統文化を象徴するものとして選んだ。
- ・たまごアート
本校らしさを出すために、卵殻は本校で飼育しているニワトリが産んだもの、また本校に生育している

植物を用いての製作物を考えた。

卵殻に着色したものと押し花を用いて、貼り絵を作成している。

3. 年間計画・経過

(1) 合唱

11月にパート・伴奏者・指揮者が決まり、12月から本格的に練習に入った。1回目は音楽の教員に指導していただいたが、中学校で歌ったことがある生徒が多いためか、順調な滑り出しだった。2回目のパート別練習では、各パートごとにリーダーが仕事をこなし、他の生徒達も自分の果たすべき役割を自覚しているようだった。全員が集合したときには2回目とは思えない仕上がりとなった。2回目練習後、各パートのリーダーとなっている校外学習委員は反省会を開き、次の練習に反映させようとはりきっていた。

(2) ソーラン節

最初はメンバーが集まらず苦戦していたが、校外学習委員長が中心となり、夏休み前にはまとまった練習ができるようになった。ビデオを見ながら、振り写しをし、またリーダーが振りを手書きし、皆に配布するなど自分たちだけで工夫して練習を行っていた。夏休みにははっぴを製作。黎明祭にはそれを着て、大勢の前で発表し、大成功に終わった。寒くなり、激しい練習で、けが人が続出するハプニングもあったが、今はペースをつかんだようで、順調に練習を続けている。



(3) 日本舞踊

幸運にも本校の非常勤講師の中に日舞の名取の方がいて指導していただけることになった。メンバーはすぐに集まり、浴衣の着付けから始まった。初回は着るだけで1時間が過ぎたが、2回目にはずいぶん時間が短縮され、振り写しに入ることができた。「さくらさくら」も夏休み前には通せるようになり、2曲目の練

習にも入った。

鍛錬が必要な分野だけに初めは心配されたが、今では短時間で浴衣も着られるようになり、教員の熱心な指導と生徒達の頑張りで動きや目線など技術的にもずいぶん向上したとのこと、交流会での発表が楽しみである。

(4) たまごアート

卵殻を集めることから始まり、週3日、校外学習委員が交代で殻を洗い、乾燥させておいた。その後、無害色素で染色し、夏休みには下絵を完成させた。同時に校庭の植物を採集し、押し花を作製した。今後、額に卵殻を貼り、押し花をちりばめて完成させる。

4. プログラム(案)

生徒達は、訪問する時には全員の合唱とパワフルな踊りを、招待する時には日本色の濃いものにしようと考え、以下のような2つの交流会のプログラムを作成した。

訪問交流会(相手校体育館)

入場

- 開会のあいさつ
- 相手校校長の言葉
- 本校副校長の言葉
- 相手校生徒代表の言葉
- 本校生徒代表の言葉：生徒会長(韓国語)
- プレゼント交換・・・だるま
プレゼントの説明(韓国語)
- 相手校の出し物
 - ・歌
 - ・伝統舞踊
- 本校の出し物 司会：
 - ・合唱「大地讃頌」
 - ・ソーラン節
 - ・合唱「明日があるさ」

退場

- グループ別交流
招待交流会の連絡

て、例年のハンゲル講座より、自由に講座内容を組み立てることができた。

招待交流会（ホテルバンケットルーム）

お迎え 司会：

- 開会のあいさつ
- 相手校校長の言葉
- 本校生徒代表の言葉：校外学習委員長
- 本校の出し物Ⅰ
 - ・筑坂紹介
- たまごアートプレゼント
- 本校の出し物Ⅱ
 - ・日本舞踊
 - ・日本の歌メドレー
赤とんぼ, 荒城の月, ふるさと, 通りゃんせ,
もみじなど
- ブース発表 事前学習で研究した内容
「韓国と日本の比較」
- 相手校生徒代表お礼の言葉
- 閉会のあいさつ

お見送り

V. 保護者会との関わり

現学年の保護者会は、入学時より学校教育活動には大変積極的であり、協力的であった。

保護者全体の雰囲気として、「子ども達と一緒に3年間学習したい。そして一緒に卒業したい。」という希望が強く、1年次の時から各クラスの年次委員中心に積極的な活動を行ってきた。

今年度においても、韓国校外学習の事前学習を協力すると共に、保護者会独自に【韓国料理の講習会】も行っている。

今回、事前学習の一つである、【ハンゲル講座】において、保護者も一緒に学ぼうという声掛けに多くの賛同を得、実現した。

活動としては、生徒の学習活動であると同時に、保護者会年次活動の場でもある。従って、講座を進める上でかかる費用は保護者会年次活動費より捻出。計画、運営、実行等は教員と生徒実行委員会によるものとした。

この実行にあたり、PTA予算委員会にて、方針を理解して頂き、例年になく多額の予算をいただいた。従っ